

学生の対流が生み出す新たな価値の可能性

自治体の首長の視点から

大正大学地域構想研究所客員教授
(前延岡市長)首藤正治



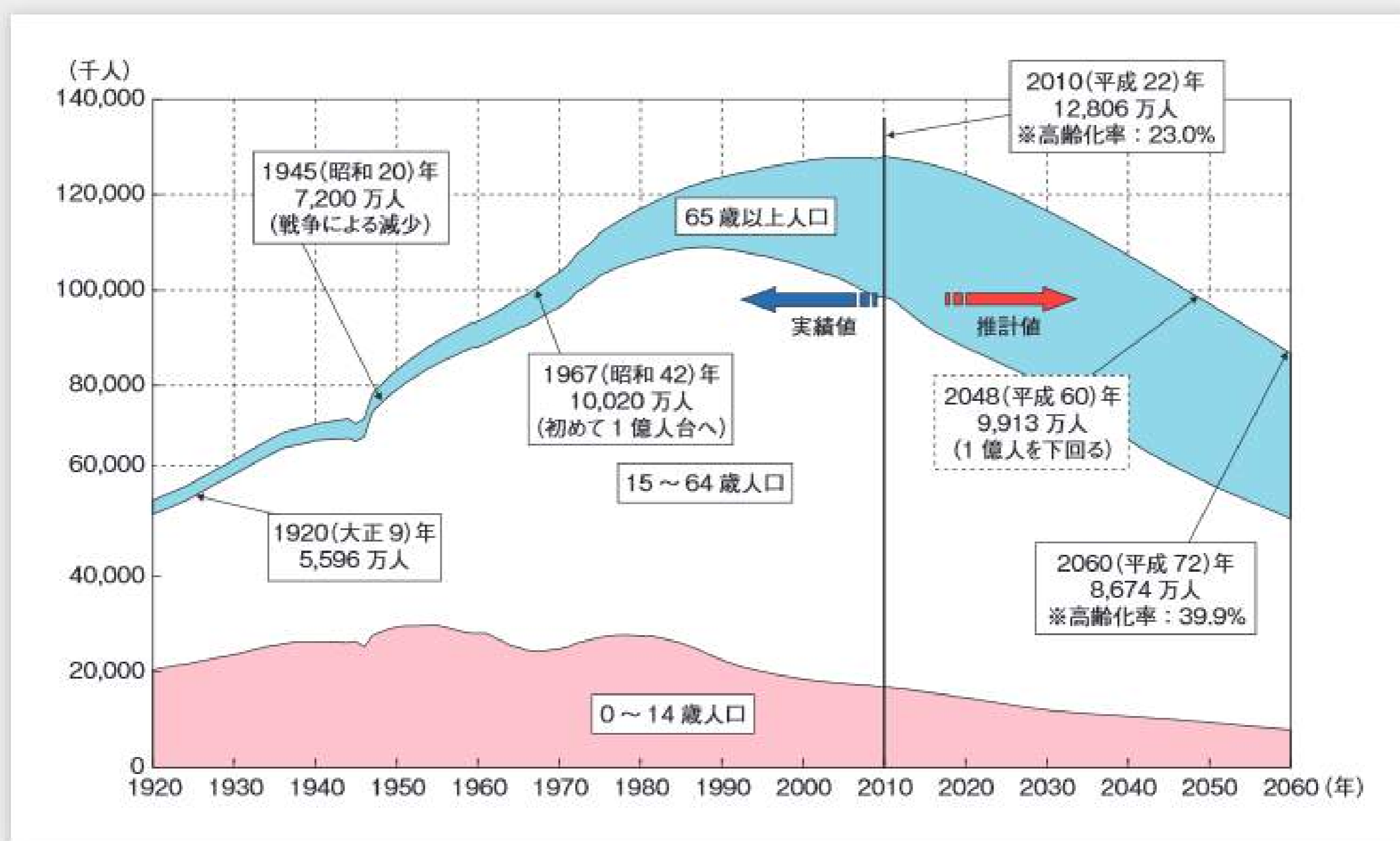
地方行政の課題

	回答割合 (%)
● 人口減少	36.5
● 少子高齢化	21.4
● 商店街・繁華街の衰退	21.0
● 地域ブランドの不在	7.4
● 観光資源の不在	3.2
● 大規模工場等の製造業の不足	3.0
● 脆弱な交通インフラ	1.6
● 地域コミュニティの衰退	1.2
● その他	4.7

- 人手不足
- 医師不足
- 災害対策
- 経済格差の拡大
(貧困)

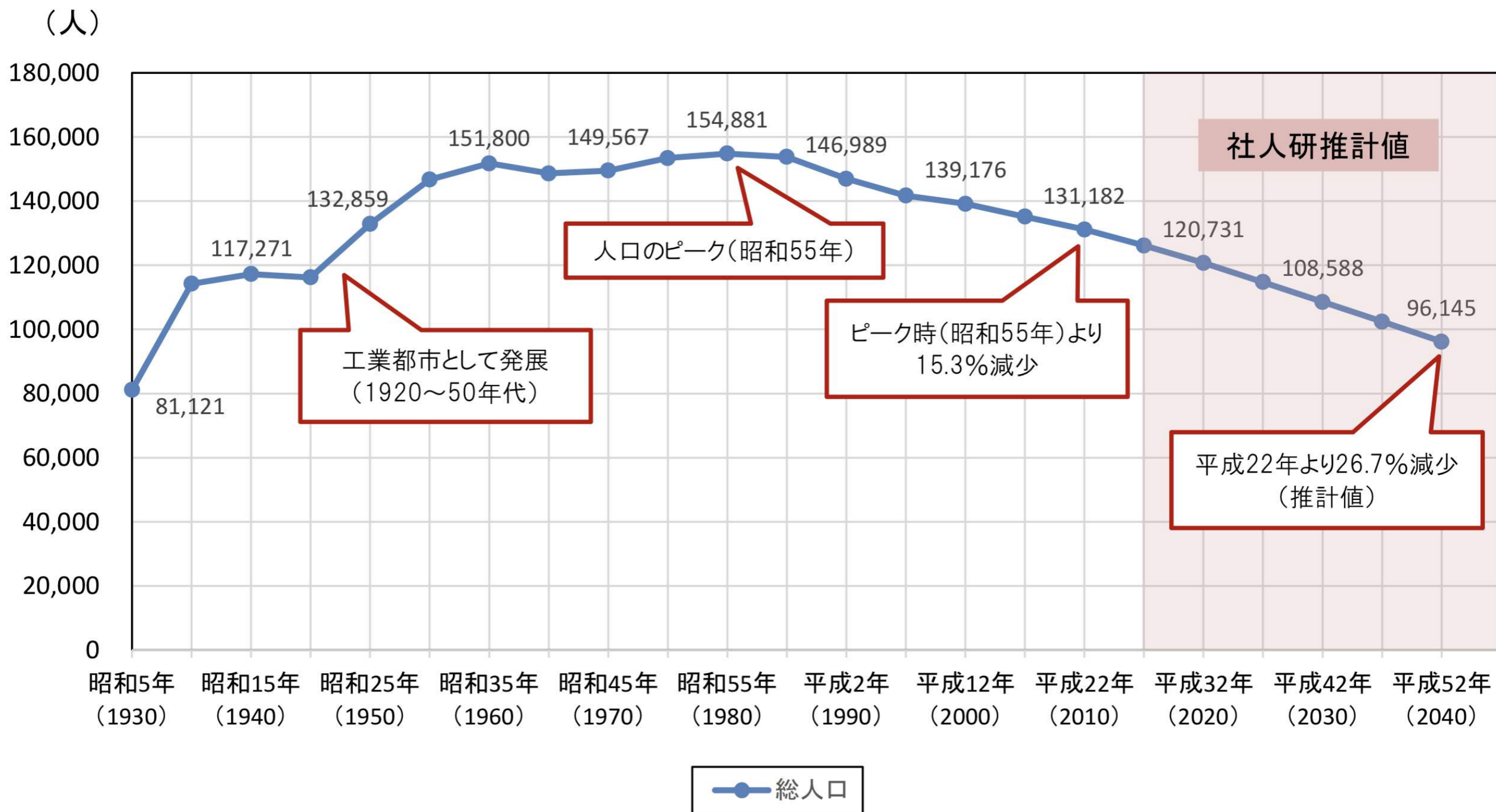
市町村へのアンケート
中小企業白書(2014年版)より

最大課題として認識される「人口減少」

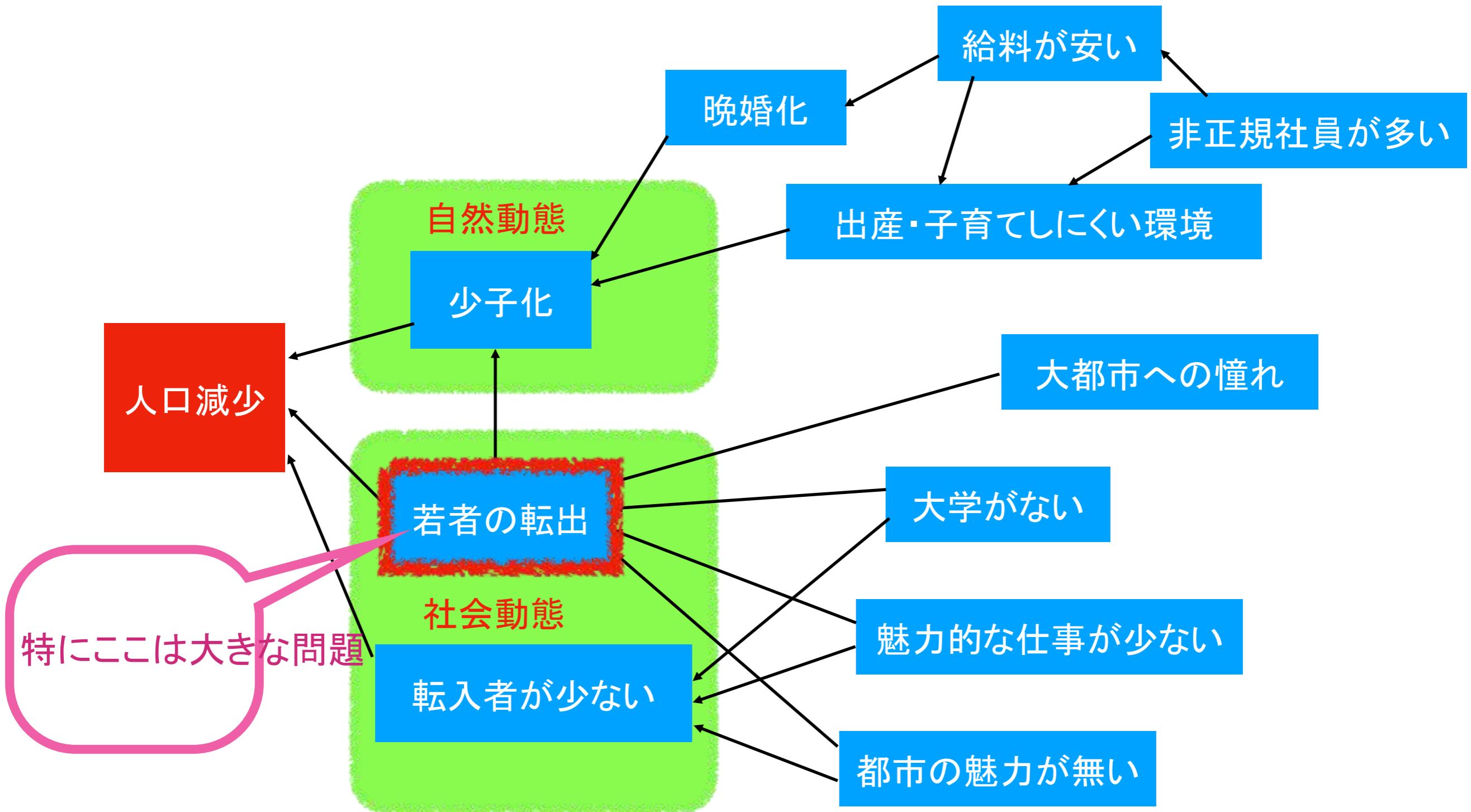


資料：実績値（1920年～2010年）は総務省「国勢調査」、「人口推計」、「昭和20年人口調査」、推計値（2011～2060年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の中位推計による。

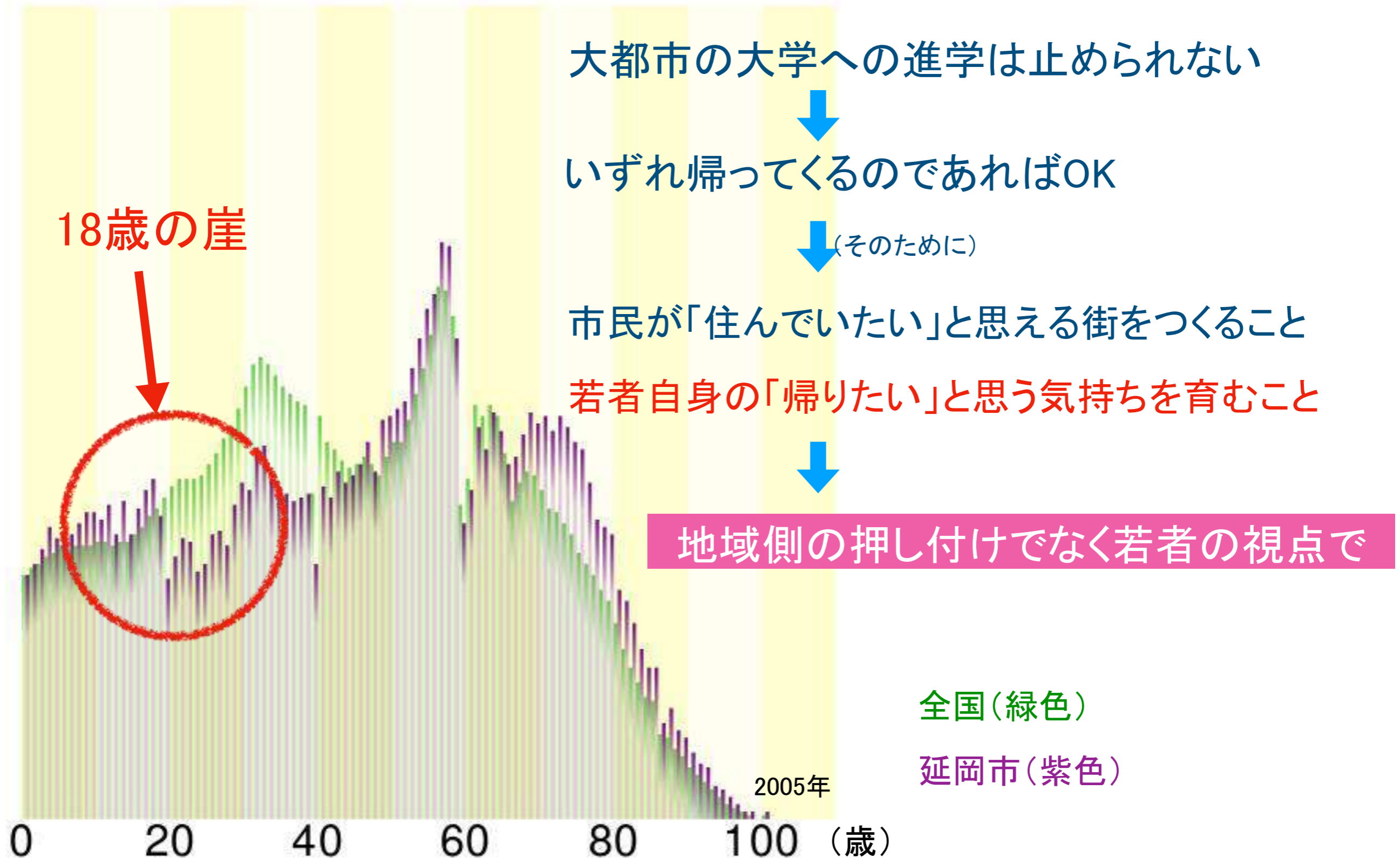
延岡市の総人口の推移と将来推計



「人口減少」は複合的な課題



延岡市の年齢別人口分布



延岡新時代創生総合戦略

「しごと」と「暮らし」を楽しむまちづくり、**延岡新時代のエンジン**

(延岡新時代創生総合戦略)

このエンジンを動かしていくエネルギーになるのが四本柱のプロジェクトです。その主な取り組みについてご紹介します。

しごとを増やす

雇用創出プロジェクト

事業所従業者数 推計値より500人改善
平成31年の労働力率 推計値より0.5ポイント向上

① 企業立地の推進

クレアパーク延岡工業団地に
5年間で420人の新規雇用



② 地場中小企業の支援

新技術・生産性の向上、メディカルタウン構想
6次産業化などの取組み案件5年間で100件



③ 九州保健福祉大学と連携

薬用作物5年間で3品種、新商品



④ 新時代の創業支援

⑤ 子育てしやすい環境づくり

子どもを増やす

結婚・出産・子育て支援プロジェクト

合計特殊出生率 推計値より0.16向上
婚姻数 推計値より80件改善

① 結婚のきっかけをつくる

イベント参加による成婚件数 5年間で30件



② 子育て支援拠点『子どもの城』

(仮称)子どもの城利用者数、のべ3万人



特に若年世代を意識した施策は

- ・雇用創出、マッチング
- ・(若者にとって居心地の良い)賑わいづくり
- ・地元大学との連携強化
- ・ふるさとと教育 など

移住を増やす

移住・定住推進プロジェクト

① 移住定住窓口設置と

延岡への移住者受入れ、5年間



③ うみウララ、北浦臨海パーク開発

(仮称)北浦臨海パーク集客、5年間にのべ88万人



④ シティプロモーション

プロモーション動画、100万回再生



③ 大崩山を世界に発信

平成29年度、祖母傾山系ユネスコエコパーク登録



LET'S ENJOY!
NEW NOBEOKA



NOBEOKA
NOBEOKA



56人改善
より35人改善

を賑やかに

5人/年
5年間で20店

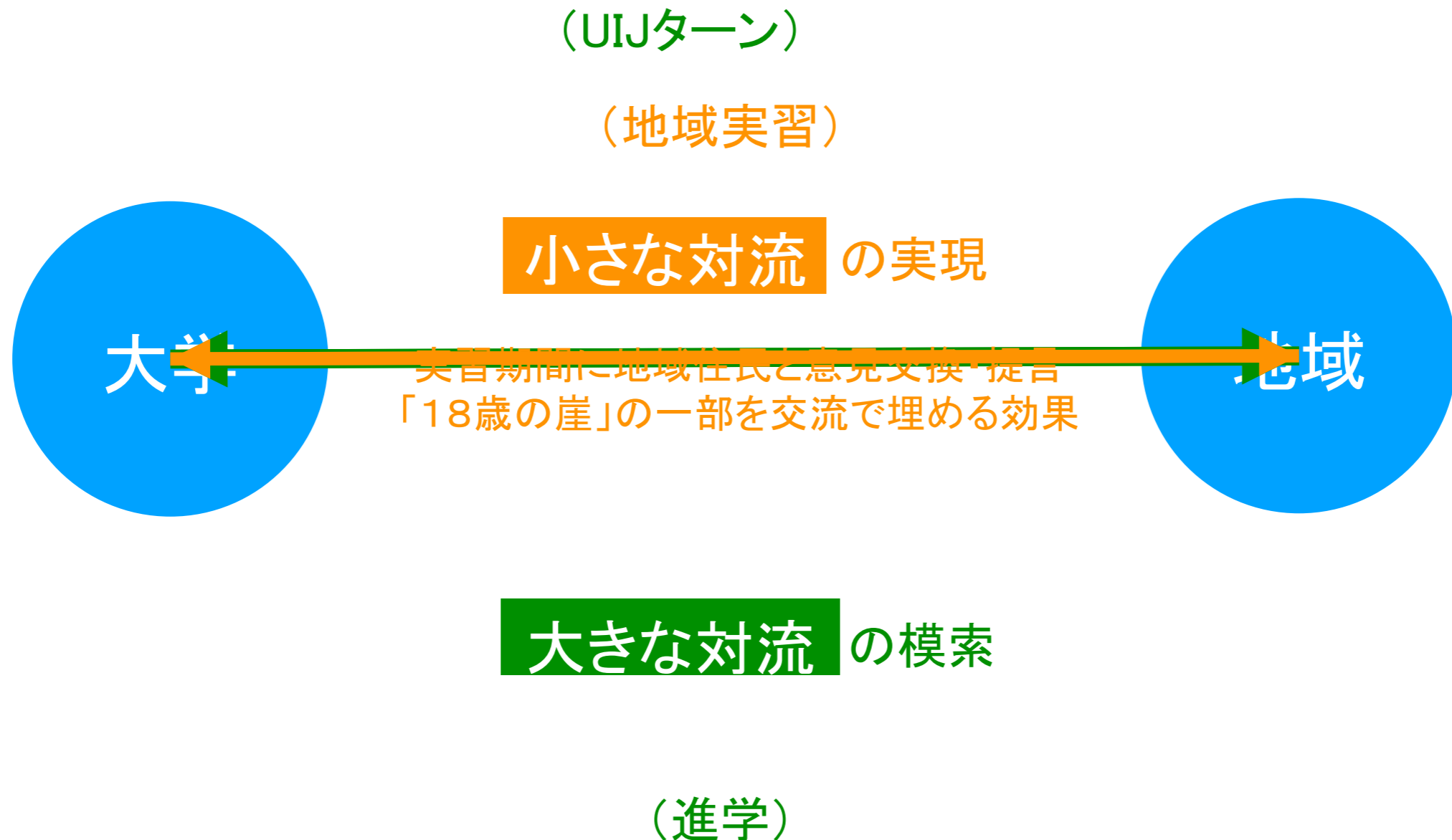
(そのような状況のなか)

大正大学の地域創生学部による延岡市地域実習

1. 延岡市への地域実習はこれまで3回実施
2. 約40日間の調査・検討を経て報告会で下記のような提言があった
 - ・新たなスポーツイベントの提案
 - ・地元食材を活用したご当地バーガーやスイーツの試作・提案
 - ・観光情報の発信にデジタルサイネージやSNSの活用を提案
 - ・コミュニティ形成の場づくりの提案 etc.
3. 地域住民の反応
 - ・「長期間にわたってしっかり調べてくれてありがたい」
 - ・「気がつかなかったような新しく面白い提案だった」
 - ・「学生の皆さんが皆しっかりしていると感じた」
 - ・「回数を重ねてくると似た提案が多くマンネリに感じる」 etc.
4. 残念ながら提案内容の継続的实施には至っていない
 - ・仕方のないことであり、地域で実施されないと失敗というわけではない

そこに生まれる「学生の対流」

地域実習や地域創生学部の講義は基本的には「学生が地域および地域創生について学ぶ」ことを主眼とするが、そこに学生の対流を生むものでもある



学生の対流が生み出す新たな価値

「小さな対流」では

- ・学生が「風の人」に

風は遠くから理想を含んでやって来るもの
土はそこにあって生命を生み出し育むもの
君、風性の人ならば、土を求めて吹く風になれ
君、土性の人ならば、風を呼び込む土になれ
土は風の軽さを嘆い、風は土の重さを蔑む
愚かなことだ
風は軽く涼やかに、土は重く温かく
和して文化を生むものを

風土舎宣言(玉井袈裟男氏)より



ダイバーシティこそが新たな価値の源泉

「大きな対流」では

- ・人口減少による疲弊はやがて限界に達し、「地方が愛情とコストをかけて育てた人材が大都市に供給されて付加価値を産む」構造が維持できなくなる危機



- ・人材の流れが定常化するサステイナブルな国に

ご清聴ありがとうございました